

新潟県租税教育推進協議会長賞 優秀

平等を実現する税金

新潟県立長岡商業高等学校

三年 阿部 彩樺

「増税」と聞いて感じることは、社会福祉や公共サービスが充実する豊かさか、負担が重くなり生活が困窮する苦しさか、どちらですか。

私は小さい頃、身体が弱く何度か入院を繰り返していました。全身に蕁麻疹が出た時はアレルギー検査をし、気管支喘息を発症した時は吸入補助器具を使い治療をしました。盲腸になり、手術をうけたこともあります。私が沢山の治療をうけることができたのは税金があつたからです。日本の税金の使い道の一つに医療費があります。診察や治療にかかる費用のうち八割又は七割を国が負担してくれる為、私たちは安心して治療をうけることができます。もし、医療費が全額負担だったら高額な医療費を支払うことができない人が出てくると思います。実際、アレルギー検査にかかる費用を調べてみると三割負担で五百円、そのため全額負担では一万七千円となります。盲腸の手術や入院にかかる費用は二割負担で六万円程のため、全額負担で三十万円です。数字にしてみると改めてこの制度の有り難さがわかります。

税金によって提供される福祉サービスは、誰でもうけることができます。税金がなければ所得が低い人は、医療をうけることができなかつたり、十分な生活保護が確保できなかつたりと、格差が広がります。もしもの時に警察や救急車、消防車を呼ぶことができるのも、道路が整備され誰でも通ることができるのも、全て税金があるからといえます。

増税で私たちが納める税金が増えればそれだけ財源が確保され、より充実した福祉が提供されます。そしてその福祉は格差をなくし、国全体の生活を豊かなものにします。増税で負担が重くなったように感じて、税金は形を変えて私たちの生活に還元され、みんなの負担を軽減しています。

税金は格差のない平等な社会を実現するために必要不可欠です。私が納めた税金は誰かの生活を支え、私の生活も誰かの税金によって支えられています。みんなが手を取り合い、笑顔で過ごせる社会の為に、誇りを持って納税する大人に、私はなりたいです。